

福永家住宅周辺敷地における潮の干満差を活用した公園の設計

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻

1240065 小林 愛

指導教員 重山 陽一郎

1. 背景

徳島県鳴門市鳴門町高島地区は、昭和 40 年代まで塩田の風景が広がり、遠浅の海を利用した入浜式塩田が発達していた。現在は住宅地となっており、その一面に塩田跡を埋め立てて造られた「鳴門塩田公園」があり、公園の西側には「福永家住宅」という国の重要文化財がある。

1) 福永家住宅と鳴門塩田公園

福永家住宅は、文政 11 年から天保 4 年(1828 年から 1833 年)の間に建てられた製塩業の民家である。建物付近にある池は入浜式塩田の跡地であり、全国で唯一塩田・製塩場・住居が一体となって残っている施設である。西側は小鳴門海峡、南側是水尾川に面している。福永家住宅に隣接する形で鳴門塩田公園があるが、人気はなく閑散とした印象である。



図 1. 福永家住宅

2) 潮の干満差

福永家が製法として用いた「入浜式」は潮の干満差を利用するものであり、小鳴門海峡では、大潮の際には 100cm 以上の干満差が見られる。



図 2. 大潮の満潮時(潮位 156cm)



図 3. 大潮の干潮時(潮位 36cm)

2. 対象敷地

対象敷地は鳴門塩田公園とする。福永家住宅は車道を挟んだ西側の敷地内に位置する。



図 4. 対象敷地地図

(国土地理院地図に筆者加筆)

3. 課題

1) 公園が車道によって分離している

現在の鳴門塩田公園は中央に1本の車道が通っているため、本来1つであるはずの公園は東西に分けられ、行き来の際は車道を横切る必要があり快適性や安全性が低い状態である。

2) 公園の整備が行き届いていない

福永家住宅が鳴門塩田の唯一の遺構として保存されているのに対し、周辺の鳴門塩田公園は草地が広がっているだけの空間となっており、場所によっては遊歩道の整備やベンチの配置がされているが、東西どちらも人気がなく活気を感じられない。



図 5. 現在の鳴門塩田公園

4. 目的

鳴門市の発展に深く関わっていた製塩業において必要不可欠な要素であった「潮の干満差」を活用した、地元住民と観光客が憩いの場として集うことができる空間づくりをすることで、製塩業及び福永家住宅の歴史を継承すると同時に鳴門市の新たな観光拠点としてより活性化させることを目的とする。

5. 設計方針

1) 車道の移設

鳴門塩田公園を二分している既存の車道を移設し、公園と車両双方の快適性・安全性を向上させる。

2) 干満差を活用した親水空間の整備

水尾川から引き込んだ海水の干満差が可視化される仕掛けを施すことで、大きな潮位差がある場所ならではの風景が楽しめる親水空間を創出する。

3) 鳴門の魅力を発信する複合施設の建設

福永家住宅や親水空間を眺めながら鳴門の食を味わい、鳴門の魅力を知ることができる複合施設を設計し、賑わいを創出して地域内外の集客を図る。

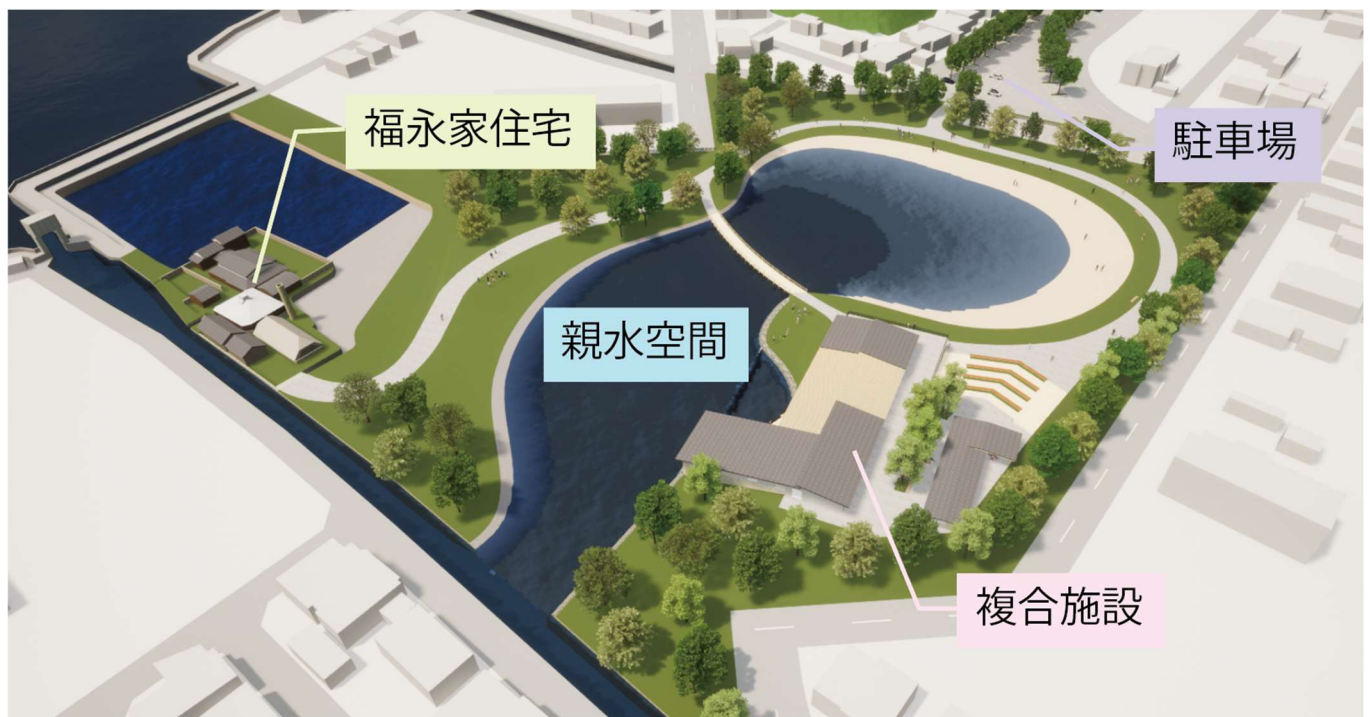


図 6. 完成予想パース

6. 設計

1) 駐車場・車道

鳴門塩田公園を二分している車道を移設して公園敷地とし、公園北側の南北方向に細長い空間を公園の駐車場の一部として整備し、そこを切り離す形で新たに車道を設ける。公園内の移動が車両の通行を気にせず行え、利用者にとってより快適な環境を提供する。さらに車両の通行経路も整理され、安全性が向上する。(図7・8)



図7. 現在の車道



図8. 整備後の車道

2) 親水空間

① 潮入の池

駐車場から公園に向かう道の突きあたりに、水尾川から水を引き込んだ池を設ける。池底は砂地にすることで水位の違いにより生じる汚れを目立ちにくくし、なだらかな傾斜をつけることで潮の干満差が際立って見えるようにする。満潮時には眼前に広がる大きい水面を眺められ、干潮時には海水が引いた部分を歩くことができるようになるという、それぞれの潮位で異なる楽しみ方ができるようにする。



図9. 満潮時の潮入の池



図10. 干潮時の潮入の池

② 観潮デッキ

公園中央の複合施設西側に岬を設け、高さは満潮時の水位と干潮時の水位の範囲内におさめることで、干潮時のみ岬が水面からあらわれてみえるようにする。さらに1mほどの隙間を空けることで、潮が引く瞬間に起こる水の流れを視覚化する。仕上げは景観を損なわないよう石積み護岸とし、近くのウッドデッキからも水の流れを見られるようにする。



図11. 満潮時の岬・ウッドデッキ



図12. 干潮時の岬・ウッドデッキ



図 13. 複合施設外観

3) 複合施設

公園東側に観光案内所・土産物売り場・飲食店・公衆トイレの4つの機能をもった複合施設を設計する。建物間は階段やスロープを設置して水辺へ人々を誘導し、明るい雰囲気を保ちつつ一体感を持たせるため屋根勾配をそろえたルーバー屋根をかける。(図 13)

① 観光案内所

複合施設北側は鳴門市の情報を発信する観光案内所とする。福永家住宅や鳴門塩田の歴史だけでなく、その他の鳴門市の観光地、食についてなど、鳴門市全体の魅力を知ってもらうきっかけとなることを期待する。

② 土産物売り場

鳴門のお土産などの販売エリアを複合施設南側に構える。福永家住宅と岬が見える場所に位置するため、様々な風景を楽しみつつ買い物をすることができる。



図 14. 土産物売り場内観

③ 飲食店

テイクアウト専門の飲食店やカフェ・テラス席を設け、利用者が公園を散策したり座って休憩したりしながら飲食ができる空間づくりをする。鳴門の食材や食文化を提供し、地域活性化につなげる。



図 15. テイクアウト専門飲食店外観



図 16. カフェ外観

7. 参考文献

- ・『～鳴門で働く人といっしょに～「鳴門再発見物語」 鳴門やけん vol.5』株式会社鳴門広告社
2017年12月発行
- ・徳島県観光情報サイト 阿波ナビ：福永家住宅 塩田屋敷 <https://www.awanavi.jp/archives/spot/2842>
- ・堂ノ浦の潮見表・タイドグラフ <https://tide.chowari.jp/36/362026/22173/>